

ありがとうございました

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、物資が不足している中、以下の企業や団体から市や子どもたちに向けて、マスクなどを寄贈いただきました。

受領後の物資については、緊急性の高いところから配布させていただきます。
寄贈いただきました皆さん本当にありがとうございました。

※令和2年5月19日時点



【寄贈者】 八代地区土木災害協会の
【寄贈内容】 マスク 10,000枚



【寄贈者】 居酒屋ばんや
【寄贈内容】 マスク 30,000枚



【寄贈者】 興人フィルム&ケミカルズ株式会社
【寄贈内容】 プラスチックフィルム 約30kg



【寄贈者】 熊本環境サービス有限公司
【寄贈内容】 次亜塩素酸水 100L
次亜塩素酸ソーダ 100L



【寄贈者】 ケアパーク株式会社
【寄贈内容】 弱酸性次亜塩素酸水（エヴァ水） 2,000L



【寄贈者】 一般社団法人 八代青年会議所
【寄贈内容】 マスク 2,000枚
子ども用手作り布マスク 260枚

寄贈一覧（写真なし）

【寄贈者】 シントワールド株式会社
【寄贈内容】 マスク 6,000枚

【寄贈者】 熊本県厚生農業協同組合連合会
【寄贈内容】 布マスク 100枚

【寄贈者】 山中産業株式会社
【寄贈内容】 マスク 6,000枚

【寄贈者】 居酒屋ばんや 他13社
【寄贈内容】 マスク 5,000枚

【寄贈者】 株式会社くれない
【寄贈内容】 布マスク 290枚、マスク 60枚

【寄贈者】 日本エネルギー開発株式会社
【寄贈内容】 マスク 2,000枚

SNSでも
八代市の情報を発信中



Facebook



Twitter

Town Topics まちのわだい

八代の魅力も運ぶ ラッピングトレーラー完成披露



▲完成したラッピングトレーラーを披露する
エムテックサービス株式会社の社員ら

4月17日、エムテックサービス株式会社は、建馬町の本社で、八代の魅力を全国にPRし、市の発展に貢献したいと製作したラッピングトレーラーを披露しました。
コンテナ部分に「八代妙見祭」と「やつしろ全国花火競技大会」のPR画像が鮮やかにデザインされ、週一回八代市と静岡県富士市の日本製紙工場を往復します。
同社の藤田孝美取締役社長は「このトレーラーを見た人が、一人でも多く八代を訪れてほしい」と話しました。

絵本をとおした親子のふれあい 八代市ブックスタート事業



▲絵本を受け取る吉田美樹さん・大和くんと親子

本市では今年4月から、7カ月児健康診査に来た親子に、赤ちゃん向けの絵本などをプレゼントする「ブックスタート」事業を始めました。
4月16日は、鏡保健センターで行われた健診前に、絵本「じゃあじゃあびりびり」とブックレットなどを23組の親子に手渡しました。
絵本を手渡した市立図書館の村野茜統括責任者は「絵本の読み聞かせだけでなく、絵本を親子のコミュニケーションツールの一つとして、親子と一緒に過ごす時間をもってもらいたい」と話しました。

長きにわたる功績をたたえて 退任人権擁護委員法務大臣感謝状伝達式



▲左2番目から太江田さん、水野さん、上田さん

3月31日をもって人権擁護委員を退任した上田護さん、水野潤一郎さん、太江田久子さんに、長年の功績をたたえ、法務大臣から感謝状が贈られ、4月14日、市役所鏡支所で感謝状の伝達式が行われました。
上田さんは平成17年から15年間、水野さんと太江田さんは平成20年から12年間、本市の人権擁護委員として、子どもたちに向けた人権啓発活動や、一般相談業務に熱心に取り組む、地域住民の人権擁護と人権尊重の普及・高揚に尽力しました。

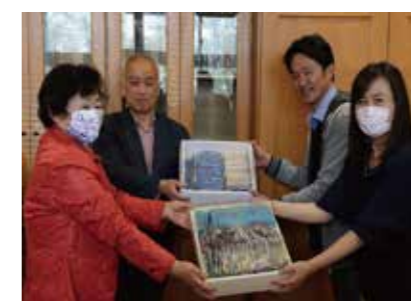
カーネーションで感謝と笑顔を カーネーション風呂のプレゼント



▲配布した1000輪のカーネーションを
特設プールに浮かべる松本会長と子どもたち

5月8日、八代の地域おこしグループTeam I♡(ラブ)日奈久が、妙見町にある「とら太の会」を訪れ、約1000輪のカーネーションをプレゼントしました。
Team I♡日奈久は、毎年5月に主催していた「日奈久温泉カーネーション風呂」をやむを得ず中止しましたが、八代や日奈久の活性化につながる明るい話題を届けたいとの思いから、入浴施設を持つ児童養護施設や介護施設などの市内10施設に、計10000輪のカーネーションを無料で配布しました。

子どもたちのために 手づくりマスク贈呈



▲手作りマスクを手渡す濱田会長（左手前）と受け取る櫻井校長（右手前）

4月22日、まちづくり協議会みやじ・宮地区健康づくり推進協議会の濱田律子会長ら3人が宮地小学校を訪れ、櫻井幸枝校長に手づくりマスク165枚を手渡しました。
同協議会は、4月上旬に同校区の77歳以上の高齢者のためにマスクを制作し130枚を配布した際、「子どもたちのためにも贈りたい」との思いから、濱田会長ら5人が約1週間かけて制作しました。贈呈式で櫻井校長は「大切な子どもたちの命を守るため、大事に使わせていただきます」と感謝を述べました。

人生を変えた2カ月 プログラミングスクール第1期生が卒業



▲卒業証書を手記に記念撮影

2月24日から2カ月間、ハナハナワークスおきなわによる「SUNABACOプログラミングスクール」を受講した生徒14人による卒業制作発表が、4月17日、本町アーケードの空き店舗で行われました。
同スクールは、何か新しいことに挑戦したい、スキルアップを目指したい、どこでも働ける力を身につけたい19歳から59歳までの人が参加。生徒たちは「天気を予測するサービス」、「農産物生産者と購入者を直接結ぶサービス」などを提供する独自のアプリ制作と発表を行いました。